

皆さん、ご無沙汰しております。この4か月の間、カメラに向かってメッセージ配信をしてきましたが、今日は皆さんと同じ時空を共有できるという事で、皆さんの顔・表情をよーく見てお伝えできたんですが、結局マスクで、何考えてはるんか、どんな感じなのか、よう分からないんですが、でも、この時を一緒に過ごせるというのは素晴らしいと思いました。

先日、あるゴスペルシンガーの方からメールが届きました。国際結婚してご主人がアメリカ人で、カルフォルニアのロサンゼルスに住んでおられます。今アメリカは人種差別抗議運動が全米に飛び火し、それがヨーロッパにも飛んで、銅像を引きずりおろしたりとか、色んな事がありますよね。

それで、日本にいるお母さんが心配なさって「あんた、大丈夫かー？」

日本のニュースを見ていると、アメリカに安全な所はどこもないというイメージを持ち易いけど、彼女がいる所はそんなん全然ない。別世界。いつもと全く変わりませんという所です。

ちょっと危ないかなという地区にある教会から「ゴスペル歌うために来てください」と依頼を受けて、「これは神様のお仕事で行くんだから、神が守ってくださる」と。行ったら「よく来てくれましたね！」大歓迎で、ノリノリのコンサート。ゴスペルやから。

すごくいい時間を持てたので、コンサートが終わっても、ついダラダラと長々とお話が尽きず、ふと時刻を見ると夜中。色んな事情があって、彼女は深夜1人で帰ったんですね。

そしたら、前の方から、いかにも怪しい車が明らかに彼女を狙っている。もう明らかに、彼女に向かってスーッと寄って来る。その瞬間「やばい。巻き込まれたか…」と思って、よく見たら息子やったと。息子だと分かった瞬間、「ほっとしたー」と言うんですね。

生きてると、色んな出来事が身の回りで起こります。

喜怒哀楽というか、平安がなくなったり・恐怖に襲われたり・緊張したり。色んな事があると思います。

人間の心の中から出て来る感情は何で決まるかという、出来事ではないんですね。

出来事に対する理解の仕方が私たちの気持ちを決めるんです。

同じ車です。その出来事を怪しい車だと理解した時は緊張と恐怖。

でも、それが頼もしい息子だと分かった瞬間にホッとして安心。

私たちが平安に生きているのか・そうでないのかは、住んでいる環境以上に、自分の身の回りの世界をどう見ているかに大きく影響されるのではないかと思うんですね。

私たちはそれぞれ自分なりの世界観や人生観を持っていると思います。

ピンク色の眼鏡を掛けて世界を見ると全部ピンク色に見えるように、この世界は危なくて・恐ろしくて・守ってくれる人は誰もいなくて・私は常に危険に晒されて・狙われて・ウィルスに囲まれてどうしようもない！と思っていたら、生きるのがしんどくなると思うんですよ。

だけど、色んな事あって・この世界は不完全で・嫌な事もいっぱいあるけど、それを補って余りある方、嫌な事があるにも拘らず私を助けに来て、夜道を1人で歩くような人生に、車を差し出してくださるような全知全能の神様がおられる。

夜道を 1 人歩く私の所に人となって来てくださるほどまでに、私を愛してくださっている全知全能の神がおられるという人生観で生きると、同じ世界で生きるにしても構えが変わって来ると思いますね。

聖書は福音、苦しみの訪れじゃなく喜びの訪れです。神様は私たちが造って造りっぱなしではなく、日々私たちを生かして、究極の祝福を与えるためにイエス・キリストを遣わしてくださいました。

今日は、キリストがしてくださった事をご一緒に考えたいと思います。

ローマ人への手紙 4 章から 3 つのポイントをご紹介します。

ローマ 4:4-5

4. 働く者にとっては、報酬は恵みによるものではなく、当然支払われるべきものと見なされます。
5. しかし、働きがない人であっても、不敬虔な者を義と認める方を信じる人には、その信仰が義と認められます。

4. 働く者にとっては、報酬は恵みによるものではなく、当然支払われるべきものと見なされます。

これは「働いたら働いた分、給料・お金・報酬をもらえます。」

という事は、「たくさん報酬が欲しいなら、たくさん働きなさい。」

莫大な報酬が欲しければ、きつい仕事をする事になります。長く働く事になります。辛い仕事でも引き受ける事になります。何か良いものを得るためには、まずしんどい思いをしなければならない。

報酬を・お金を・給料を・何かを得ようとするならば、働かなければならないと言うのです。

ところが、世の中にはお金で買えないものもあるんですね。

また、努力によってもどうにもならないものもある。

ここでは、働く事で報酬を得る事は出来るけど、どんなに働いて得た報酬でも、どうにもする事が出来ないものもある。どんなに努力しても、どうにもならない事もある。

例えば、過去を変えること。人生を振り返った時、「なんで、あんな所に行ってしまったんやろか」とか「なんで、あんな事言ってしまったんやろか。」「なんで、この人選んでしまったんやろか。」「なんで、こんな仕事に就いてしまったんか。」後悔というかしくじりというかね。あるかもしれません。

私は『聖書と福音』というラジオ番組をさせていただいているんですが、最近 YouTube でも流してしまして。最近のを是非ご覧下さい。動画になっているんです。こちらの集会で発信している YouTube の動画は私が動いているばっかし。何か絵が出るわけでもなく、なくてもいいみたいな感じでしょ？

『聖書と福音』の YouTube はアニメになっていて。「え、どんなん？」いっぺん見てください。

そして、チャンネル登録した上で「いいね」。親指が上向いているヤツね。間違っても、下向いているヤツをクリックしないでください。「いいねっ！」

ついでに、『ごうちゃんねる』という個人チャンネルもやっておりますので、そちらの方もついでに「いいね」。よろしくお願ひしたいと思います。

昔まだ YouTube で流していなかった時、リスナーからお手紙を頂きました。20 代後半の看護師さん。県立の大きな病院で非常に献身的に働いて、「私は不器用だけど、この仕事は天職じゃないかな」と思っていたのですが、ある出来事を境にガタガタになって行くんです。

実は、彼女の処置が間違っただけで、患者さんに一生消えない後遺症が残る事になったんです。

医療ミスですよ。それは新聞沙汰になってもおかしくない事だったそうです。でも、ならなかった。

なぜか？このナースは将来があって、すごくいいナースだからという事で、被害者とご家族が「大っぴら

にしないでください。隠蔽ではありません。“私たちのプライバシーのために”という名目で、新聞沙汰にはしないでください。」と庇ってくれたんです。

その言葉を聞くだけで、彼女がいかに一生懸命勤務していた方がしのばれますよね。

上司は「こんな風に言ってもらえるなんて、本当にあり得ない事だ」と了解して、同僚はみな彼女を慰めて、そして被害者は赦してくれて。「さあ、これからもう一度、一からやり直しだ！」となればいいのですが、たった1人だけ、徹底的に彼女を追い詰めて罵り、非難する人がいたんです。それは本人。みんな了解し、慰め、赦して。だけど本人の良心が、「あなた、一生取り返しのつかない事をやってしまったじゃない」と、自分自身を責めて責めて責め続けて、ガタガタになって行く。

20枚くらいの便箋にびっしり。私はそれを読みながら、ある短編小説を思い出しました。

朝日新聞連載の夏目漱石（なつめ そうせき/1867-1916/慶応3-大正5）の『夢十夜』（ゆめじゅうや）。

「私はこんな夢を見た」という書き出しで10個の夢を紹介します。

夢の中の話だから、実際はあり得ないような事が出て来るのですが、その10個の夢の中に彼の人生観が全部入っている。晩年の作品です。

その第3話。ちょっとうる覚えですが。

漱石が6歳になる自分の息子を背負って道を歩いている。息子は両眼潰れているんです。

「お前の目が潰れたのは何歳の頃だったっけ？」と聞くと「うむ。もうずいぶん前の事さ。」6歳やのに。声は子供だけど言葉遣いは大人。しかも対等。「自分の子だけど、なんだか嫌だな」と思いながら、その子を背負って、田んぼの真ん中の1本道を森に向かって真っ直ぐに歩いて行くと、サギがさーっと横切るんです。白い鳥。その時、「田んぼに差しかかったなあ。」「お前、見えへんのになんで分かんねん？」「だって、サギが横切ったじゃないか。」

この6歳の子、見えないと言うけど、何でもよく知っている。

そして、背中にへばりついて、耳元でぼそぼそっという言葉を聞いているうちに、段々自分の内側が見透かされているような気持ちになって。

「そうだ。ここ真っ直ぐ行ったら森がある。その森に捨ててこよう。こんなんと一緒におったら、この先どうなるか分からない。この子を捨て子にしよう」と決めた瞬間に、耳元で「ふっ」と笑うんですよ。その気持ちも読まれたという感じ。

真っ直ぐ行くと道が2つに分かれてて、「左に行けよ」と言うんです。

彼が躊躇していると、「いいから左に行けよ。だれも見ることが出来ない森の中に入って行けるから。」

森の中にずーっと入って行くと、「もうすぐだよ。」「もうすぐって？」「君がやった事さ。」「何？」

「何って、知ってるじゃないか」と言われた瞬間に、知っているような気がして来るんですね。

でも、それが何か思い出す事が出来ない。また、このタッチが暗いねん、これ。

「目が見えないと不自由でたまらないよ」と言うので、「だから背負ってやってるじゃないか。」

「背負われているけど、親にすらバカにされてるからなあ。」

「おとつあん、俺、重いか？」「重くないよ。」「これから、ずんと重くなるぜ。」

そうして森の1番奥に行くと、「杉の木の辺りに来たなあ。おとつあん、その杉の根っこの辺りだよ。ちょうど今から100年前、お前が俺を殺したのは。」その瞬間「あっ、私は人を殺した者だったのだ！」と分かった。その時、背負っていた子供が大きな岩の塊みたいにずしんとなって、押し潰されそうになる。

この子は途中から光るんですね。自分の過去・現在・未来を照らすように。
で、自分の罪を指摘した後で、この子が自分を押し潰すような巨大な重みとなつてのしかかって来る、というところで目が覚める。
もう、なんという…。でも私、これを思い出しましたね。

自分から出て来て背負っている子供は“良心”です。
良心というのは本人しか知らない事、いや、本人が日頃の日常生活の忙しさの中で忘れていたような、或いは蓋をしている記憶もよく覚えていて、一々それを指摘するのです。
良心は、自分の良心なのに自分の言う事を聞いてくれないんです。
自分の心の一部であるにも拘らず、黙ってくれないんです。
良心が自分を訴えるので重くて重くて仕方がない。いっそのこと捨ててしまおうと思うけど、自分の心の機能の一部なので、捨てようにも捨てる事が出来ない。

いっその良心を全く感じなくなれば、多くのストレスや精神的病から解放されるに違いない。
だけど、良心を全く感じなくなると、恐るべき人間になりますね。
良心を持ちながら、しかも健康的な心を手に入れるって、どうしたらいいでしょう？
これは、どんなに努力しても得る事は出来ません。
どんなにお金を払ったとしても、この問題を解決する事は出来ません。
この問題の解決は、“自分の良心も神の正義の基準も完全に満たす一方的な赦し”というプレゼントをもらう以外にないんですね。

ポイント① は、人には努力しても解決できないものが幾つかあって、そのうちの 1 つは罪の解決です。

ポイント② **ローマ 4:5** しかし、働きがない人であっても、不敬虔な者を義と認める方を信じる人には、その信仰が義と認められます。

神様は、人がどうにもできない重荷を人に代わって解決してくださる方である。
働きがない人であっても、自分の罪を赦すための働きがない人、そんな働きが何一つ出来ない人であったとしても、不敬虔な者を義と認める方（神）を信じる人には、その信仰が義と認められます。
義と認められます。この言葉を今日ぜひ覚えて欲しいんですね。
“認められる”はギリシア語で“ロギゾマイ”。

私は大学を出て、民間企業の商社で 10 年間営業をやっていました。
前半 5 年は円高ドル安とバブルが重なった 5 年です。後半 5 年はバブル崩壊の 5 年ですよ。
「バブルってなに？」って…、あったじゃない、昔。
私が勤務していたのは輸入商社。円高ドル安というのは、もう安く買えるんです。円高やから。1 ドル 240 円があつたという間に 120 円。つまり、今まで売っていた定価の半額で売っても、全く値引きなしで売ったのと同じ事になるんです。「左団扇とはこの事か！」変な話、お給料良かったんですよ。で、非常に古い体質の会社で、給料もボーナスも銀行振り込みではなく手渡しなんです。手渡し！

なぜ手渡しにするのか？よく頑張った者には、それなりの膨らみがあるわけ。給料はそんなに分からないけどボーナスは…。ボーナスの時、小さな封筒じゃなくてでっかい封筒。ドンと置いたらね、立ちます。私、初めてそれをもたらした時、「図書券やったらどうしよう」と思って。
日本銀行券でそんな立つようなお金、自分が生きている間にそんな…ね。その時 20 代やから。開けてみたら「帯付きってこれや！」と。家に帰る時「最近、こんな喜びに満たされた事あるだろうか。」

「お前、それでもクリスチャンか」みたいな。救われた時の喜びに匹敵するような。つくづく思いました。俺は金が好きなんやなど。浅ましい奴やなど。ほんまに思いましたね。そういうのに慣れるというか、金銭感覚が麻痺するというか。

その時、家賃がバンバン上がって行って、それだったらローン組んで買った方が、月々の支払い考えたら安くなるんじゃないか。手頃な物件があったのでマンションを買いました。

そのローン返済方法がもうムチャクチャ。20年ローンですよ。最初の5年は金利を安くして、15年でグーッと上がって行くというムチャクチャな金利。これは、うなぎ登りに出世して、後になるほど高収入が確実に見込める人のローンの組み方なんです。おっちょこちょいやからね、これや！とやったんです。

が、会社に入って10年経った時、自分の体力が1番良い時に営業の仕事で使い果たして行く事に、何とも言えない虚しさを感じて辞めたんですよ。ちょうど10年目で。

そして、フルタイムだ！24時間フルタイムだ！と。最初は疲れが出てたので24時間フルタイムで寝たんですが、疲れも取れると「よーし！」という感じで、そこからあっという間にもうこんな歳になりました。この前、赤いちゃんちゃんこ着せられたんです。もうほんまにね。やめてくれってね。

で、辞めると給料入って来ないんです。そなん、辞める前に分からへん？普通。このローンの返済方法は、ボーナス月に巨額のお金を払うんですよ。ポーン！ポーン！で。それで2年経たないうちに、退職金を始めとする貯金がほぼ無くなったんです。どうすんねんと。どうすんねんて、「よう考えなさい」やけど。もう毎月の支払日、そして夏と冬のボーナス月が来るのが怖いというか。

とにかくかき集めて払う、かき集めて払うことをやっているうちに、段々ケチ臭—くなって来て、家内の買い物が無駄遣いに見えて来るんです。細かい事だけど、生協でトイレットペーパーの袋を2袋買ってるのを見ると腹立ってくるねん。「お前、1日に80回もトイレ行くか？なんで、そんな無駄な買い物すんねん。トイレットペーパーなんか1個ずつ買ったらいけるやろ！」とか言うて。男が「トイレットペーパーの買い過ぎや」という事で責め立てるわけ。そしたら「ごめんなさい。」そして「またアホなこと、言うてしもた…」って、それがまた自己嫌悪。

借金、これはローンだけど、担保取られてるわけじゃないですか。こんな事してたら家の中暗いし、「こんなもん、売ってしまえ！」と手放す事を考えたら、バブルの時に買ったのはボンと下がってるんです。手放しても借金返済できひんねん。という事は、歯を食いしばってでも。「ええか。我が家はトイレットペーパー買わんと、街で配っているティッシュペーパー集めて来い！」みたいな。もうね、自分はみみっちい男や。ものすごい儉約というか、自分はあまり厳しく見ないで、子供には「それ、残ってる！」とか。ケチ臭—い。

それでも返されへん、返されへんのとちやうかなという状態で。そうしながら10年。もう「逆さに振っても鼻血も出んぞ」という事になった時のある日、私の預金通帳にそこそこのお金が振り込まれたんです。実は、その時の家内の父が亡くなって、そんな大きなお金ではないけど遺産を残してくれたんですね。それでもう、いっぺんに返しました。借金無いて、ええよ！まあ、皆さんは関係ないと思いますよ。返した時「これからの、好きなだけトイレットペーパー買っていいから。」ちよっ、どう思う？これ。

ところで、**義と認められます**は“ロギゾマイ”でしたが、これは経済用語で、“自分の収入ではないお金

が自分の口座に振り込まれる” という意味があるんです。

私の労働で得た収入ではなく、私は何の働きもしていないにも拘らず、誰かが私の代わりに支払ってくれたお金。誰かが代わりに私の口座に入金してくれる財産の事をロギゾマイというのです。

借金返済で義父が残してくれた物は、私は何の働きもしていない。何にも関係ない。亡くなって遺産として残してくれたんです。それによって、私は自分の手に負えないローンを返済する事が出来たのですが、それ以上に私たちの手に負えないのは、自分の罪の償いなんですね。

どんなに大金持ちでも、金で罪の償いを買取る事は出来ないんです。

罪の償いは、私に代わって誰かが罪の罰を引き受けてくださる以外にはないのです。

キリストは私に代わって、約 2000 年前に十字架にかかってくださいました。

私が本来受けるべき死後の裁きを、あの十字架の上で、生きながらにして全部引き受けてくださった。

それがイエス・キリストです。つまり、神はイエス・キリストという命の値で私たちの罪の償い金を払い、私たちの口座にそれを振り込んでくださいました。

そして、キリストは死んでそれだけでなく、神は 3 日目にご自分のひとり子イエス・キリストを死からよみがえらせてくださった。これが、支払われたという事の領収書なんです。

神は人が自分で出来ない事を代わりにしてくださる方です。

自分で出来る事については「しなさい」と仰います。でも、自分で出来ない事については、神が代わりに解決してくださる。これが神様のご性質なんですね。

ポイント③ では、どうしたらいいのでしょうか？私の場合は銀行の私の口座番号を教えたら良かった。どうしたら、イエス・キリストの赦しを振り込んでいただく事ができるのでしょうか？

ローマ 4:5 しかし、働きがない人であっても、不敬虔な者を義と認める方を信じる人には、その信仰が義と認められます。

不敬虔な者を義と認める方を信じる人。

「神は不敬虔な私を赦すために敬虔なイエス・キリストを身代わりに屠り、そして、よみがえらせた方。それによって、私に赦しを与える方である」と信じる人。その人には、その信仰が義と認められます。つまり、信仰なんですね。

日本を代表するクリスチャンの 1 人に内村鑑三（うちむら かんぞう/1861-1930/万延 2-昭和 5）という人がいます。息子さんが祐介（ゆうすけ）さん。東京大学医学部教授、医学部学部長にまでなられました。彼がまだ小さかった時、内村が「今日は汽車のおもちゃを買ってきてあげるから」と約束して仕事に行きました。帰って来た時、すぐに息子さんが玄関先まで迎えに出て「お父さん、汽車のおもちゃは？」うっかり忘れてたんですね。「今日は忙しくて忘れてた…。」

その瞬間、息子の口から、今まで言われた事のない言葉を投げつけられたんです。「嘘つき！」

これがグサッと刺さった。内村は何が嫌いって、嘘つき・嘘、これがもう大嫌い。

常々そう言っていたのですが、息子から「嘘つき！」と言われて、グサッと刺さった。

脱ぎかけた靴をもう一度履き直して、四谷まで汽車のおもちゃを買いに行きました。

なんでそんな事をしたのか？内村自身も、神の約束にすがって生きる人だったから。

神の約束が果たされずに嘘だったとしたら、それはどんなに大きな衝撃だろうか。
人間である私がした約束を、うっかりして果たせなくて「嘘つき」と言われた時、居心地悪く気持ちが悪くて仕方ない。こんなに気持ちの悪い事があるものか！それだったら、今からでもおもちゃを買いに行く方がはるかにいいと出かけて行く。
ましてや、絶対にうっかりミスのない神様が、ご自分の心を乱すような「約束を破る」という事があるだろうか？あり得ない！

神は私たちを愛してくださっていますが、同時に、人格ある方なので喜怒哀楽があるんです。
神にも怒りがあります。神にも喜びがある。神は悲しみの神であり、愛する神です。喜怒哀楽がある。
では、私たちがどうする時に神は1番喜ばれるのでしょうか？
すごいボランティア活動する。それもあるかもしれませんが、でも1番じゃない。
断食する。長時間祈る。聖書を最初から最後まで完読・熟読・暗記する。一生懸命教会の前を掃除する。
色々な事を考え出して実行するけど、聖書に答えが書いてあります。

神が1番喜ばれるのは、私たちが神を信頼することです。人が神を信じること・信頼することです。
なぜなら、人格ある者にとって1番の名誉は“信じられる”という事だから。
罪人の私たちが神様に最も喜んでいただけるのは、イエス・キリストを自分の救い主として信じることなんです。キリストによって、私に救いを与えてくださったという事を信じること。
イエス・キリストを通して、神は私をこの上もなく愛してくださっているのだと信じる事が、何よりも神に喜んでいただけるのです。

いかがでしょう。不敬虔な者を義と認める方を信じる人には、その信仰が義と認められ。
あなたの口座に、あなたの働きによるのではない莫大な財産が入金されるという意味なのです。
これが聖書のメッセージなら、まさに福音/喜びの訪れではないでしょうか。
神は「まずそれを、命を受け取ってごらん」と勧めてくださっているんですね。
是非、イエス・キリストをご自分の救い主として、今日信じてください。心からお勧めしたいと思います。

お祈りして終えたいと思います。
恵み深い父なる神様、今日もイエス・キリストの福音を真っ直ぐにお話する事ができ、ありがとうございます。「不敬虔な者を義と認める方を信じるなら、その信仰が義と認められる」と聖書にありました。あなたは私たちが不敬虔な者である事をご存知の上で、誰よりも何よりも敬虔なキリストを与えてくださいました。これに勝る愛はどこにもありません。
今日、キリストによって示された愛による救いが、血による贖いが、お一人びとりの心に届いて、この方を救い主として受け入れますように、どうぞ助けを心からお願いします。
この時間を感謝し、イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

~~~~~

- \* 動画は YouTube で「HCA 東住吉キリスト集会」
- \* ラジオ番組「聖書と福音」(約 14 分) も是非どうぞ。YouTube もあります。
- \* YouTube 「ごうちゃんねる」(約 10 分) も是非見てください。

動画筆記 : Rumi